都道府県番号	４１
都道府県名	佐賀県

（①□　②□　③☑）

Ⅰ　学校名及び規模

伊万里市立伊万里中学校						
	１年	２年	３年	特殊学級	計	教員数
学級数	５	６	５	１	１７	３３
生徒数	１８６	２０２	１９１	６	５８５	

Ⅱ　実践研究の概要（主題（テーマ）及び設定の趣旨）

・主題

「主体的に、そして、ともに学び、生きる力を高める生徒の育成」

－基礎・基本の確かな定着を図り、個の可能性を引き出す指導法の工夫－

・テーマ設定の趣旨

学習習慣の確実な定着のうえに基礎的・基本的事項の定着と学習意欲の喚起を図る手だてを工夫し、一人一人に確かな学力が身につく授業を展開することによって主体的な学習へとつなげ、学力の向上をめざす。

Ⅲ　実践研究の内容について（選択した観点を中心に記述）

（ｉ）研究体制の工夫

（研究テーマ、実践方法等の共通理解等、配慮した点など）

(1) 第１学年習熟度別少人数授業指導担当割と役割分担

	１　組	２　組	３　組	４　組	５　組
標準コース	B	A	A	A	A
基礎コース	C	B	B	B	C

【Aは１年担任、Bはきめ細かな指導担当・研究主任、Cは数学科主任(主３年)】

以上のように、３人でペアを組み、最低週１回の打ち合わせと月２回程度の数学科部会を実施して、共通実践を行う。また、下記のような役割分担によって、充実した指導をめざす。

研　究　役　割	担 当 者	研　究　役　割	担 当 者
年間計画作成	数学科	小テスト、ﾜｰｸｼｰﾄ作成	A
評価規準・基準作成	A、B	課題ﾌﾟﾘﾝﾄ、復習ﾌﾟﾘﾝﾄ作成	A、B、C
評価に関する申し合わせ	数学科	テスト採点、入力、集計	A、B
指導方法改善	A、B、C	自己評価表集計	B
教材・教具の作成	A、B、C	習熟度別コース分け	A、B
評価	A、B、C	補充指導	A、B
定期テスト作成	A、B		

(2) 評価についての申し合わせ（関心・意欲・態度を評価する手だて）

ア．授業における問答・観察（発表回数、話の聴き方、学習態度等）

イ．学習用具・課題点検

ウ．小テストへの取組状況把握

エ．学習ノート（ワークシート）の使い方状況把握

オ．数学ワーク、自学ノート点検

カ．単元末の自己評価　　など

（ⅱ）実践研究の内容（第１学年数学科における取組）

(1) 評価規準・基準をもとにした定期テスト問題の作成

評価規準については、国立教育政策研究所教育課程研究センターの評価規準の作成、評価方法の工夫改善のための参考資料（中学校）及び教科書会社提供の資料を参考にして作成し、各単元の中で必ず身につけさせるべき基礎・基本としても位置づける。評価基準は、文章による表現ではなく、１つの評価規準に対して２～３問以上の評価基準別の問題例で示す。そして、各問題の正答数に応じて、観点別に総合してＡＢＣで評価する。

実際に、テスト問題の作成では、出題できる問題数に限度があるので、学習の進め方や学習状況等を十分に考慮して、５０問程度の問題を出題する。その際、特に重要だと考える評価規準については、問題数を多く設定する。また、テストの解答用紙には、途中の計算式や考え方が書き込めるスペースを設け、個々の学習の到達度を細かくチェックできるようにする。

(2) 評価規準達成のための指導方法の改善

評価規準を達成するために、習熟度別少人数指導（１クラス２コース）やＴＴによる個に応じた指導によって、適切な支援や評価を行い、生徒の学習意欲を喚起し、理解を深める。また、生徒が主体的に集中して取り組める授業を創造し、復習小テストやさかのぼり指導等を実施して、確かな学力の定着を図る。家庭学習（課題）にも積極的に取り組めるような手だてを講じる。

(3) 問題別・生徒別の正答率集計

学年全生徒の回答状況をコンピュータで入力計算し、問題別・生徒別の正答率を出力する。生徒別の正答率から、指導が十分であったのか、どの程度理解ができているのか、評価するに妥当な問題であったのかなどを推測する。問題別の正答率からは、十分に理解ができていない問題を把握し、授業の中での基礎・基本の指導、さかのぼり指導、補充指導で基礎・基本の確実な定着を図る。コース別の正答率も容易に抽出することができ、指導に大いに生かすことができる。

(4) 指導と評価の一体化

個々の学習意欲や学習環境を高めるために、毎授業時間、復習小テスト、学習用具忘れ・課題忘れ、発表回数、学習態度点検を行い、定期テスト時には、学習ノートや数学ワークの点検を行う。関心・意欲・態度の観点では、チェックしたこれらの項目を点数化して、ＡＢＣで評価する。

(5) 単元末の自己評価・希望コース調査とコース分け

単元末には、各小単元の内容が理解できたか、意欲的に取り組めたかを自己評価

させる。集計結果をもとにして、理解できていない小単元については、再度補充指導を行う。また、次の習熟度別コースの希望を取り、生徒との話し合いを経て、個々にあった学習コースを決定し、次の学習へと進んでいく。

（iii）成果と課題

(1) 成果

① 生徒達は、単元毎のコース分けによる習熟度別少人数授業に意欲的に参加し、発表の機会や個別指導を受ける時間が増え、学習意欲が高まり、楽しみながらできる喜びを味わうことができている。

② ノート指導やワークシートの活用によって、書くことへの抵抗も少なくなり、重要事項をきちんとまとめることができ、基礎・基本の定着がなされている。

③ 毎授業時間の忘れ物・宿題点検によって、学習用具準備の大切さを再認識し、学習を効率的・効果的に進めることができるようになっている。

④ 授業前からの小テストや復習プリントへの継続的な取組によって、既習事項内容が徐々に定着し、授業に集中して臨めるようになってきている。

⑤ テスト結果分析や自己評価集計によって、定着できていない内容や単元について重点指導、さかのぼり指導、繰り返し指導、補充指導等を施したことが、基礎・基本の確かな定着に繋がってきている。

(2) 課題

① 学力テスト分析やアンケート集計等をもとにして、個々の実態を正しく把握し、基礎・基本を確実に身につけさせる手だてを研究する。

② 限られた年間授業時間の中で、確かな学力をつけさせるために、指導方法改善研究に励む。

③ 家庭学習への主体的な取組と学習時間増を図り、学習内容と学習習慣の定着に努める。

⑤ 評価規準・基準を指導と評価に十分に生かすと共に、効果的な評価規準・基準表の作成に努める。

（iv）成果の普及方策

(1) 研究実践公開（公開授業）H14.11.7、H15.2.17
(2) 平成１４年度佐賀県学力向上フロンティア研修会において実践発表
(3) 平成１４年度伊万里市学力向上対策委員会において実践発表
(4) 県外の視察来校者への実践講話
(5) ＨＰ上で、研究実践公開の案内や学力向上の取組の一端を公開
(6) サガＴＶ、伊万里ＣＡＴＶで、学力向上の取組の一端を公開

（ｖ）その他（その他、特色ある取組がある場合に記入）　などを記述

(1) 学習訓練的な、学習環境的な、学習能力的な基礎・基本を洗い出し、日々の授業で共通実践し、授業の充実度を高めている。
(2) 基礎学力向上の手だてとして百ます計算を実施し、計算力、集中力を高めることに取り組んでいる。